

中年女子のスカート設計に関する基礎研究  
日本女大家政 ○恒川久子 渡辺聡子 並花厚子

目的 従来、スカートはウエスト、ヒップ、腰丈などの寸法からパターンを作り、それによつて裁断縫製されている。しかし、中年女子の体型は、若年女子とは腰部の形態が著しく異なり、それら数項目の情報だけでは適応しきれない。そこで私達は、中年女子の腰部体型を把握することによつて、スカート設計への方向づけを考えた。8枚～12枚はぎスカートは一般的に一つのパターンを等倍して作られているが、今回は、腰部横断面上における曲率に注目し、近似展開法によるパターンを作成し、比較検討を行った。

方法 腰部体型がそれぞれ異なっている中年女子3名を被験者として選び、スライディングゲージ法により静止時及び歩行時のウエスト、中ヒップ、ヒップの各横断面を測定し、曲率の大きさに依存する交角一定の外接多角形を求め、運動量を考慮しながら腰部の近似展開パターンによる模型を作り、8枚～12枚はぎスカートを作成し、適合性を検討した。

結果 従来の方法で作成したスカートと、近似展開法から作成したスカートを比較したところ、曲率を考慮している近似展開法によるパターンは、被験者の各部位の扁平率により分割線が著しく異なっていることがわかった。またいずれの被験者も中ヒップが前面に大きく出ているため、従来の方法では不十分であることがわかった。